

J Sights Corporation

2025 年 7 月 28 日
J サイト株式会社 担当:本田

《北米 NON-GMO 大豆の作付と市場展望レポート》

概要

本レポートでは、2025 年産北米 NON-GMO 大豆の作付・価格動向を整理し、米中関係や南米シフトといった国際要因が日本市場に与える影響を考察します。さらに、今後の市場変化や、当社 J Sights の役割について提言します。

市場環境の全体像

NON-GMO 大豆の需給や価格は、産地や天候だけではなく複数の要素が複雑に絡み合っていて決まります。

- 播種・収穫のタイミングと気象条件（特に夜間温度）
- 契約圃場の認証状況（SSAP、FSA など）
- 為替や先物相場の変動、物流・港湾の混雑状況
- 米中間の通商政策や関税リスク
- 輸入国の流通構造や食品加工トレンド

こうした背景を踏まえ、北米・南米・中国の動向を総合的に把握することが、日本市場の調達戦略には不可欠です。

現況分析（2025 年 7 月中旬時点）

北米の作付・価格動向

2025 年産の NON-GMO 大豆は、カナダ・米国ともに好天に恵まれ、播種は順調に終了しました。単収も前年を上回る見込みですが、需給の緩和ほどには価格が下がっていません。主な要因は以下の通りです。

- ◇ 円安水準の長期化による調達コスト上昇
- ◇ CBOT 大豆先物の反発
- ◇ 認証農場の維持費や分別物流コストの高止まり

中国・南米動向と影響

中国は国産比率向上政策を進め、米国からの輸入を抑制しています。さらに 2025 年に復活したトランプ政権による対中関税（最大 30%）が心理的なブレーキとなり、次の変化が進行しています。

- 米国サプライヤーは日本・台湾・韓国など安定市場への供給を重視
- 中国は関税回避のため南米（ブラジル・アルゼンチン）からの調達を拡大
- 南米の余剰減少により CBOT 価格への上昇圧力が継続

日本市場の現状と注目点

日本市場は米国にとって依然重要な輸出先ですが、その存在感が高まっているかどうかは慎重に見極める必要があります。数量は横ばい～微減傾向でありますし、品質や分別対応は日本が最も厳しいと評されているからです。

J Sights Corporation

また、南米シフトや ESG 基準の浸透によって北米産が再評価される可能性はあるものの、こうした動きが価格や需給にどの程度反映されるかはまだ不透明です。数量だけでなく、品質・安定性を総合的に判断する視点が求められます。

これからの市場動向と高品質原料の重要性

米国内の NON-GMO 作付は横ばいからやや減少傾向にあり、プレミアム価格での契約が維持できなければ農家の作付意欲が下がり、将来的な供給に影響するリスクがあります。

一方、欧州や台湾では SDGs・ESG の流れを受け、NON-GMO の価値が「高品質で環境に配慮した原料」として再評価されています。数量だけでなく、ブランド価値や付加価値としての評価が進んでいるのが特徴です。

日本市場では「NON-GMO である」だけでは十分な差別化になりません。豆腐製品においては凝固の安定性や粒の均一性、加工のしやすさといった製造現場での利便性が重視されます。そのため、日本向け原料は“現場仕様の高機能原料”として評価されており、この基準を満たせるかどうか競争力の鍵となります。

J Sights の役割と提言

私たち J Sights は、こうした複雑な市場要因を整理し、お客様の意思決定に活用できる情報として提供することを重視しています。

今後も業界の変化を先読みし、日本市場に最適な大豆供給を支えるパートナーとして歩んでまいります。ご不明点や詳細情報が必要な場合は、どうぞお気軽にお問い合わせください。